

みえ現場 de 県議会

「子ども子育て支援」

三重県議会では、多様な県民の意見を県議会での議論に反映させるため、「みえ現場 de 県議会」を平成22年度から開催しています。

開催概要

今回は10月27日(日)に、松阪市にある三重県立みえこどもの城で、「子ども子育て支援」をテーマに取り上げ、子育て家庭が置かれている現状や抱えている課題、行政も含めた社会における支援策などについて、子育て中の方などから直接ご意見をいただきました。

参加者 県議会議員(正副議長、広聴広報会議委員、戦略企画雇用経済常任委員長、環境生活農林水産常任委員長、健康福祉病院常任委員会副委員長)14人
子育て中の方(小学校低学年までの子どもがいる方)7人
子ども子育て支援に関わるNPO等の方5人



参加者からの主なご意見

0歳～保育所・幼稚園に入るまでの時期

- 子育てが大変なのは仕方ないが、0、1歳と最初のところで深くかかわることで、子どもがかわいくなっていく。
- 4人目が産まれたときに初めて夫に育児休暇をとってもらった。子育てに参加してもらって、夫のイクメンパワーがすごく増したと感じる。やはり男性が育児に協力してくれるのは本当に少子化対策になる。
- 今度4人目が産まれるので育児休暇を取る予定。男性が育児休暇をとるときに一番心配するのは、出世。自分の場合、給料が通常より少なくなるのが心配になり、短い育児休暇は1か月だけとすることにした。
- お母さんが一番不安定になるのは子どもがまだ自分でものを訴えることができない時期。お母さんが安定するためにはお父さんの役割はすごく大きい。
- 男性の育児参加が重要だと思うが、男性の意識を変えていくために県がどんな取り組みをしているのか教えてほしい。
- 日本は、妊娠したら産婦人科や地域の母子保健センター等の活動があったりするが、その後、保育園・幼稚園へ行くまではサポートがふつ切れ。ぜひ県として何かサポートしていただきたい。やはり時期によって頼る場所が違うのは大きな課題。



保育所及び幼稚園の時期

- 自分の娘が通っている幼稚園が、15人未満のため閉園されると聞いた。地元で通える幼稚園がなくなるのは困る。少人数の幼稚園でも閉園にせず、是非守ってほしい。
- 保育園から幼稚園に変わりたいと思っても、経済的なこともあって終日働かなくてはならない夫婦では幼稚園に行けないということがあがるが、今後の幼保一元化の方向性について教えてほしい。
- 共働きなので3人の子どもを保育園に預けているが、入所申し込みの際、市役所の人から3人とも同じ所に入れるかどうかはわからないと言われ不安になった。また、子どもが3人いると、連続で熱を出したりして、看護で何日も仕事を休むことはなかなか大変である。病児保育などは聞いたことがあるがまだ利用したことがない。保育の施設や仕組みが充実したり、気軽に利用したりすることができれば保育に関する不安がなくなって、育児がしやすいと思う。
- 子どもを保育園に入れて仕事にしているが、平日の行事に参加する機会もなく、ママ友ができないことを不安に思っている。

小学校低学年の時期

- 田舎は、近所と距離があり、遊びに行くにも親などの送り迎えが必要。学童もあるが、そこしかいけなかったり、習い事するにはバス等を使わなければならないと、山間部ならではの悩みがある。
- 学童保育の運営は保護者がしているが、子どもの卒業に伴って保護者が入れ替わる非常に不安定な組織なので、もう少し公的なサポートがあれば良い。
- 学童保育の運営費に対する補助金は、人数によって額が全然違うと聞いたが、地域的に子どもが少なくて学童があまりない所もたくさんあると思うので、その部分はもう少し改善できないか。
- 自分たちが子どものときは地域に子どもの自主集団があったが、今は学童だけである。親が仕事があるから学童へというだけでなく、学童を子どもが育ち、人間関係を作っていく場と考えて、ぜひ応援してほしい。
- 公立の学童は預かるだけで、子どもへのサポートも個人の資質任せ。リーダーやきちんとしたカリキュラムがあるわけではない。子どものいない昼間の職員の処遇も問題になる。デンマークでは、昼間は学校の補助員をやっている。日本もそれぐらいのことを考えないとまずいと思う。

今後の意見反映方法

参加者からいただいたご意見は、今後の議会での議論につなげていくため、次のように取扱っていきます。

1 意見の整理と広聴広報会議への報告

いただいたご意見を整理し、広聴広報会議で報告します。広聴広報委員は、各党派において報告内容の周知を図ります。

2 関係委員会等への情報提供

上記1で報告された内容に関する委員会等に対し、広聴広報会議座長から情報を提供します。

3 委員会等での情報共有と討議

上記2で情報の提供を受けた委員長等は、各委員会等でその内容を委員間で共有するとともに、必要に応じて委員会で討議を行います。

常任委員会における広聴の取り組み

みなさんから直接意見をお聴きする会議は、「みえ現場 de 県議会」だけではありません。その他の取り組みについてご紹介します。

戦略企画雇用経済常任委員会の県内調査における意見交換 (平成25年7月30日実施)

本委員会では、本年度の重点調査項目の一つとして、県内経済を支える中小・小規模企業の経営力・活力の向上に向けた取り組みなどについて調査することとしており、先般、名張商工会議所を訪問調査しました。

今回は、関西地域の企業を川下企業としてがんばる小規模事業者の現状や課題などを調査するため、名張管内の三社の企業の社長さまにもご参加いただき意見交換などを行いました。

ご出席いただいた皆さんからは、「ものづくり補助金の弾力的な運用や事務手続きの簡素化」のほか、「後継者の育成問題」、「低生産性・低収益性の改善」など現場が抱える貴重なご意見を沢山いただきました。

今後、本委員会では、地域経済に活力と厚みをもたらす中小企業、特に小規模企業の振興を図るため、現在、県が検討を進めている「三重県中小企業振興条例(仮称)」の審議の中で、更に議論を深めていきます。



総務地域連携常任委員会の県内調査における意見交換 (平成25年8月5日実施)

本委員会では、今年度特に重点的に調査を行う項目の一つとして、基幹産業である第一次産業が衰退し、若者の人口流出や高齢化が進行する県の南部地域の活性化の取り組みについて調査することとしています。

今回は、人口減少や少子高齢化が進み、地域の担い手不足や地域活力の低下、主産業である水産業や地場産業の低迷や雇用の場の不足などが課題となっている離島地帯の実態について調査するため、鳥羽市にある4つの有人離島の一つである菅島の住民の方々と意見交換を行いました。

ご出席いただいた方々からは、「企業誘致による雇用の場の確保」、「水産資源の適切な管理」、「漁業の振興」、「診療所の運営へのサポート」、「島内の小学校への教員配置の充実」など、様々なご意見をいただきました。

いただきましたご意見は、今後の議会での議論に生かしていきます。

